

地域おこし協力隊通信 (No. 27) 中種子町で昔話動画を作る

以前から、地方の昔話を動画にしてみたいという想いがあり、そんな中、中央公民館図書館で素材を探すと愉快的昔話に出会った。それは「種子島の昔話Ⅰ」昔話研究所、資料叢書⑩、下野敏見編著の中から「屁ひり嫁」というお話し。

これほど思い、2018年12月中旬開催の「落語と活弁の世界」というイベントの子どもたちのワークショップで、この「屁ひり嫁」を活弁の素材に選び動画制作した。

屁ひり嫁とは「嫁いできた嫁が、スゴイいきおいの屁をひるので、姑が怒り、実家に返してしまった。しばらくして、ある娘が病気になる、医者が高い木になっていく、とある実がいいと父親に言う。その実を落とすため弓打ちや鉄砲打ちが狙ったが落とせなかった。その話を聞いた姑は屁ひり嫁を実家から呼び寄せ、屁の爆風で実を落とさせた。その実を食べた娘さんの病気は治り、喜んだ姑は屁ひり嫁と再び暮らすことにした」というもの。

この昔話、テレビの日本昔話では東北地方の「屁ひり女房」というお話して放送された。こ

こでは、屁ひり嫁を実家に帰そうとする道中で嫁の屁が利用される。出航できない船を屁で沖まで進め、その見返りに米俵をもらい、柿が取れない男のために屁で実を落とし、その見返りに反物と馬を得る。「こんな嫁を実家に返すのはもったいない」と夫は思い、嫁の為に屁の部屋を作り、再び一緒に暮らすことに。

この東北版と比べて種子島版は命を救った見返りを要求する事がなく、嫁の特有の価値を対価に置き換えていない。それは無欲で、さらに生命を大事にするという主張がそこにある。昔話は口で語られて耳で聞く文学。お話しの方はひとつで、それが語り継がれていくうちに土地土地の個性が挿入され脚色され、今に至っているのではと考える。

そんな「屁ひり嫁」の動画は、舞台として古市家住宅をお借りして撮影、出演者は絵で登場。また、活弁用の作品のためセリフや音楽は活弁ワークショップ時に採録したものを付け、作品はユーチューブのなかたねチャンネルにあげる予定。新年早々、香ばしいお話で失礼しました。

(山村)

心と体をリフレッシュ

第1回よいらーいきウォーキング

よいらーいきスポーツクラブが主催のよいらーいきウォーキングが12月1日に初開催され、約20人が参加しました。当日は晴天に恵まれ、雄龍雌龍の岩前から保健センターまでの10・7kmを参加者はしっかりと腕を振り、ウォーキングの姿勢を意識しながら笑顔でゴールしました。昼食は食生活改善推進員による豚汁、じゃこ入りご飯が振る舞われ、昼からは、講話と抽選会もありました。



10 区間 42.6km を繋ぐ

第48回熊毛地区市町対抗駅伝競走大会



出場選手(敬称略) ※区間賞大字寺田耕作、稲子望愛、平田優人、知念凌汰、坂中伸作、秋田沙耶、住吉風遊馬、園田啓真、住吉蘭、塩浦孝昌

42・6kmの道のりを擧で繋ぐ熊毛地区市町対抗駅伝競走大会が12月2日に中種子町内であり、本町からも中学生から一般までの男女で編成された1チームが大会に臨みました。序盤から安定した走りチームワークで、独走態勢。最後まで後続を引き離し、強さを見せた本町チームは、2位と2分50秒差をつけ、優勝しました。また、本町から4人が区間賞を獲得しました。